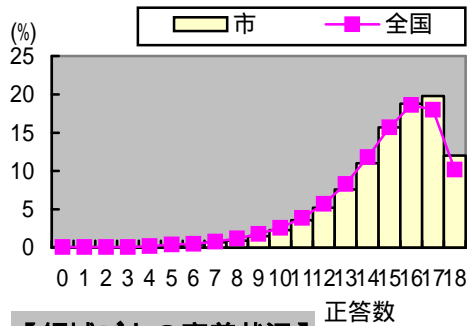


1 教科について

国語 A

全国平均 81.7 市平均 82.8
学校平均 84.4

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
話す・聞く	56.6	59.8	65.5
書くこと	85.3	86.6	88.7
読むこと	67.3	69.8	70.1
言語事項	86.8	87.7	88.1

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	81.6	82.8	85.3
短答式	81.8	83.3	83.3
記述式	-	-	-

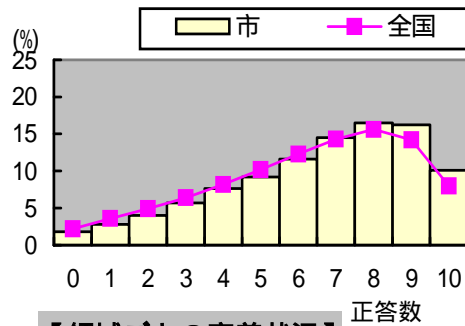
定着状況

分かりやすい話し方をするために大切なことが理解できている。
漢字の読みや指示語、接続語の使い方が正しくできている。
文章を読み取る力は、おおむねついている。

国語 B

全国平均 62.0 市平均 65.0
学校平均 66.0

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
話す・聞く	70.9	75.1	80.4
書くこと	61.7	63.7	65.7
読むこと	57.7	60.9	61.9
言語事項	77.0	77.5	69.1

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	62.8	64.3	58.8
短答式	62.4	66.5	68.8
記述式	62.1	64.7	65.8

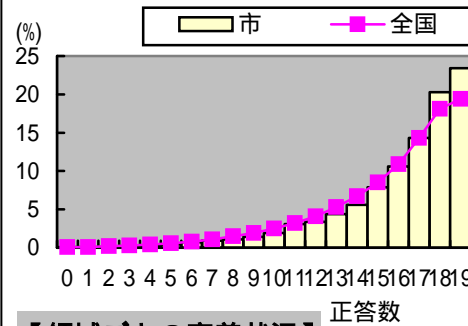
課題

聞き取った内容を要約する力が十分に身に付いていない。
読み取った内容を活用したり、書いてある文章の表現のよさを考えたりする力が不十分である。

算数 A

全国平均 82.1 市平均 84.2
学校平均 87.9

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
数と計算	81.5	84.4	86.4
量と測定	86.1	89.7	93.5
図形	86.1	87.9	85.6
数量関係	75.4	76.6	86.3

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	76.5	80.0	81.0
短答式	84.1	86.0	90.1
記述式	-	-	-

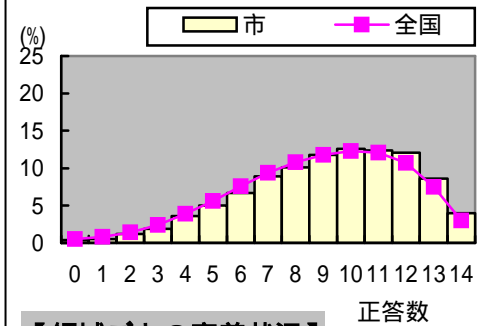
定着状況

分数や小数の計算が正確にできる。
平行四辺形や三角形など既習の図形の面積を公式を用いて求めることがおおむねできている。
伴って変わる2量の規則性に気づくことができている。

算数 B

全国平均 63.6 市平均 65.7
学校平均 65.0

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
数と計算	58.9	61.1	59.3
量と測定	58.0	60.5	58.4
図形	72.5	74.6	76.3
数量関係	65.5	67.7	66.7

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	73.0	75.3	74.6
短答式	73.7	75.7	77.1
記述式	45.0	47.2	44.7

課題

記述式の問題の正答率が低い。自分の考えを式や言葉で表現する力が身に付いていない。
問題文を読み取って条件を整理し、筋道を立てて考える力が十分に身に付いていない。

2 意識調査について

(1) 生活・学習

登校に間に合うように起き、身の回りのことを自分で行い、外にでて遊んだり、運動・スポーツをしたりして、体をよく動かしている。ほとんどの子が、8時間以上の睡眠をとり、朝食も食べて、リズムよく生活している。
テレビやゲームなどで、就寝時刻が遅くなり、十分に睡眠がとれなかったり、起きる時刻が遅くなったりする児童がややいる。また、社会の出来事や地域への関心がやや薄い。数は少ないが、自己有用感や自己肯定感をもてない児童がいる。

(2) 教科

【国語】
国語の学習が好きで、読書に興味を持って取り組んでいる児童が多く、生活の中で学習したことを生かそうとしている傾向が強い。絵や写真、図や表などを使って、文章を読んだり書いたりすることや、話し合いを通じて、いろいろな役割を担うという経験に乏しい。

【算数】
算数の学習が好きで、前向きに取り組むことができる。身近な生活の中で、学習したことを生かして計算の工夫をしたり、便利な方法を考えようとしていたりしている。
新しい問題や解き方がすぐに見つからないような課題に出会ったときに、あきらめずに取り組もうという意欲や意志が不足している。

3 確かな学力の定着と向上に関する研究目標

<研究主題> 「人とのかわわりを大切にしながら、自分で考え行動する子どもを育てる。」～わかる・できる喜びを共に味わう算数の授業をめざして～
研究の視点 問題設定の工夫 コミュニケーション活動の充実 支援と評価の明確化

4 指導改善に向けた具体的な取組

国語

聞く力を育てるためには、ただ漠然と聞くのではなく話の要点を的確にとらえるための活動を取り入れる必要がある。
書いたり読んだりする力をのばすためには、いろいろなジャンルの本を読んだり、自分たちの書いた文章を読み、互いに感想を伝え合ったりする場を多く設定することが必要である。
相手や場を意識した活動を積極的に取り入れ、よりよい表現方法ができるように育てていくことが必要である。

算数

式から問題づくりをさせるなどの活動を通して、小数の乗法の意味について理解できるようにすることが必要である。
考えの理由を説明したり、求め方を式で表したりする力をのばすために、授業の中で自分の考えを表現する場を多く設定していく必要がある。
問題文にかかっている内容をよみとって、必要な情報に線を引く、図や表に表すなどの活動を通して、条件を整理したり、既習事項の中から用いる知識を判断したりする力を育てることが必要である。

生活・学習習慣等

自分の生活について振り返らせる機会を設け、自らが課題を見つけ、生活を改善しようとする気持ちを育てる。また、家族や地域の人たちとのあいさつを習慣づけていく。学年に応じて適切な時間でできる学習課題を与え、家庭での読書や学習習慣を身につけさせていく必要がある。

